

●第2期南丹市地域創生戦略 総括評価資料（案）

＜資料3－1＞

基本目標	基本目標に設定した 数値目標（KGI）	H30 (2018) 基準値	R 1 (2019) 1期目5年目	R2 (2020) 実績	R3 (2021) 実績	R4 (2022) 実績	R5 (2023) 実績	R6 (2024) 実績	5年目 達成度	R6 (2024) 目標
1しごとをつくり、そこで働くひとをふやす	【1－1】 誘致企業就業者数（人） （正社員＋パート・アルバイト）	2,777人	2,871人	2,895人	2,982人	3,076人	3,146人	3,183人	102.7%	3,100人
		前年度比	(+94)	(+24)	(+87)	(+94)	(+70)	(+37)	【判定：A】	(基準+323)
		基準値比	(+94)	(+118)	(+205)	(+299)	(+369)	(+406)		
	【1－2】 誘致企業地元雇用率（%）	34.9%	33.3%	30.7%	34.1%	34.1%	36.1%	36.3%	100.6%	36.1%
		前年度比	(▲1.6)	(▲2.6)	(+3.4)	(0)	(+2.0)	(+0.2)	【判定：A】	(基準+1.2)
		基準値比	(▲1.6)	(▲4.2)	(▲0.8)	(▲0.8)	(+1.2)	(+1.4)		
	【1－3】 認定農業者数+認定新規就農者数（人）	128人	130人	130人	137人	145人	141人	148人	98.7%	150人
		前年度比	(+2)	(0)	(+7)	(+8)	(▲4)	(+7)	【判定：B】	(基準+22)
		基準値比	(+2)	(+2)	(+9)	(+17)	(+13)	(+20)		
	考察	誘致企業就業数及び誘致企業地元雇用率は目標を達成した。誘致した企業が地元雇用に努めているため雇用率上昇に関係したと考えられる。 認定農業者数+認定新規就農者数（人）は増加傾向にある。高齢化は進んでいるが、合同企業説明会「京都ジョブフェア」で案内し市外からの新規就農希望者を確保している。新規就農につながった要因として、本市では「南丹市がんばる農業応援事業」により農業機械の導入費用を支援していること、京都市内からのアクセスの良さ、京都市内と比較して水温等が低いことから水稻の高温障害に耐えられる等、環境の良さが考えられる。								

基本目標	基本目標に設定した 数値目標（KGI）	H30 (2018) 基準値	R 1 (2019) 1 期目 5 年目	R2 (2020) 実績	R3 (2021) 実績	R4 (2022) 実績	R5 (2023) 実績	R6 (2024) 実績	5年目 達成度	R6 (2024) 目標
2南丹市への新しい人の流れをつくる	【2－1】 転入者数（人）	1,248人/年	1,201人/年	1,130人/年	1,248人/年	1,092人/年	1,194人/年	1,014人/年	72.0% 【判定：C】	1,408人/年
		前年度比	(▲47)	(▲71)	(+118)	(+156)	(+102)	(▲180)		(基準+160)
		基準値比	(▲47)	(▲118)	(0)	(▲156)	(+102)	(▲234)		
	【2－2】 転出者数（人）	1,291人/年	1,325人/年	1,214人/年	1,169人/年	1,070人/年	1,189人/年	1,161人/年	325.0% 【判定：A】	1,251人/年
		前年度比	(+34)	(▲111)	(▲45)	(▲99)	(+119)	(▲28)		(基準▲40)
		基準値比	(+34)	(▲77)	(▲122)	(▲221)	(▲102)	(▲130)		
	【2－3】 観光入込客数（万人）	229万人/年	237万人/年	183万人/年	200万人/年	229万人/年	245万人/年	259万人/年	95.9% 【判定：B】	270万人/年
		前年度比	(+8万人)	(▲54万人)	(+17万人)	(+29万人)	(+16万人)	(+14万人)		(基準+41万人)
		基準値比	(+8万人)	(▲46万人)	(▲29万人)	(0)	(+16万人)	(+30万人)		
	【2－4】 観光宿泊者数（人）	106,338人/年	114,898人/年	86,125人/年	84,661人/年	109,538人/年	130,757人/年	138,155人/年	115.1% 【判定：A】	120,000人/年
		前年度比	(+8,560)	(▲28,773)	(▲1,464)	(+24,877)	(+21,219)	(+7,398)		(基準+13,662)
		基準値比	(+8,560)	(▲20,213)	(▲21,677)	(+3,200)	(+24,419)	(+31,817)		
考察	転出者については目標値を達成し、第2期で減少することができたが、転入者数を増加させることはできず、転出超過であった。住民基本台帳（2023年）によると、南丹市の転入・転出は京都府内および近隣府県との間で多く発生しており、特に京都市・亀岡市との人の動きが顕著。転入割合では京都市16.8%、亀岡市13.6%と2市からの転入が30.4%、京都府全体では43.9%を占めている。また、外国人の転入が多かった。 観光入込客数と観光宿泊者数についてはコロナ禍を経て回復傾向にあり、いずれも基準値を上回る数値となった。観光宿泊者数においては目標を達成しており、RESAS※の「居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）」の構成割合によると、同期間における宿泊者数は大阪府からが最も多く（42.58%～50.27%）、次いで京都府内、兵庫県が多かった。 第3期では、引き続き関係人口を創出する取り組みを行うとともに、在住者に住んで良かったと感じ、住み続けてもらえる取り組みと、市外から移住したくなるまちづくりの取り組みを進める必要がある。 ※「地域経済分析システム（RESAS:リーサス）」は、地域経済に関するビッグデータを地図やグラフで可視化できるデータプラットフォームで、2015年から経済産業省/内閣官房が提供									

基本目標	基本目標に設定した 数値目標（KGI）	H30 (2018) 基準値	R 1 (2019) 1 期目 5 年目	R 2 (2020) 実績	R 3 (2021) 実績	R 4 (2022) 実績	R 5 (2023) 実績	R 6 (2024) 実績	5年目 達成度	R 6 (2024) 目標	
3 結婚・妊娠・ 出産・子育て の希望をかな える	【3－1】 婚姻数（件）	98件/年	94件/年	69件/年	77件/年	62件/年	77件/年	53件/年	46.1%	115件/年	
		前年度比	(▲4)	(▲25)	(+8)	(▲15)	(+15)	(▲24)	【判定：D】	(基準+17)	
		基準値比	(▲4)	(▲29)	(▲21)	(▲36)	(▲21)	(▲45)			
	【3－2】 出生数（人）	200人/年	171人/年	165人/年	131人/年	166人/年	132人/年	120人/年	54.5%	220人/年	
		前年度比	(▲29)	(▲6)	(▲34)	(+35)	(▲34)	(▲12)	【判定：D】	(基準+20)	
		基準値比	(▲29)	(▲35)	(▲69)	(+34)	(▲68)	(▲80)			
	【3－3】 子ども女性比（%） （0～4 歳人口/15～49 歳女性人口）	18.7%	17.7%	17.7%	17.1%	17.2%	16.4%	15.5%	77.5%	20.0%	
		前年度比	(▲1.0)	(0)	(▲0.6)	(+0.1)	(▲0.8)	(▲0.9)	【判定：C】	(基準+1.3)	
		基準値比	(▲1.0)	(▲1.0)	(▲1.6)	(▲1.5)	(▲2.3)	(▲3.2)			
	考察	婚姻数、出生数ともに減少傾向であった。RAIDA※の「地域少子化指標（2020年）」によると、以下のとおり。									
		●女性の未婚率 南丹市の女性の未婚率は42.03%であり、全国平均の39.52%よりも2.51ポイント高くなっている。南丹市では全国平均よりも結婚していない女性の割合が高いことを示しており、結婚に至る女性が少ないことが少子化の一因となっている可能性が高い。									
		●有配偶出生率 一方で、南丹市の有配偶出生率は75.18（対1,000人）で、全国平均の70.35（対1,000人）よりも4.83ポイント高くなっている。これは、結婚している女性が出産する割合は全国よりも高いことを示している。									
以上から、南丹市の合計特殊出生率の背景要因として全国平均と比較すると女性の未婚率が高い一方で有配偶出生率は高く、主な要因は未婚率の高さにあると考えられる。											
子ども女性比（%）は横ばい、やや減少傾向となった。											
	※「地方創生データ分析評価プラットフォーム（RAIDA:レイダ）」は、効果的なデジタル実装施策を支援するため、データにより地域課題を捉え、分析・考察することをサポートし、施策目標の達成を後押しするために、2024年1月末に内閣官房/内閣府が立ち上げ、運用しているデータプラットフォーム										

※判定の目安・・・A:達成率100%以上、B:達成率80%以上100%未満、C:達成率60%以上80%未満、D:達成率60%未満

基本目標	基本目標に設定した 数値目標（KGI）	H30 (2018) 基準値	R 1 (2019) 1 期目 5 年目	R2 (2020) 実績	R3 (2021) 実績	R4 (2022) 実績	R5 (2023) 実績	R6 (2024) 実績	5年目 達成度	R6 (2024) 目標	
4 誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる	【4－1】 南丹市が住みやすいと感じている市民の割合（％）	63.3%	46.4%	52.8%	54.8%	49.5%	42.7%	44.7%	65.4%	68.3%	
		前年度比	(▲16.9)	(+6.4)	(+2.0)	(▲5.3)	(▲6.8)	(0)		【判定：C】	(基準+5.0)
		基準値比	(▲16.9)	(▲10.5)	(▲8.5)	(▲13.8)	(▲20.6)	(▲20.6)			
	【4－2】 防災の面で安心して暮らせるまちだと感じている市民の割合（％）	37.3%	31.2%	39.0%	39.0%	36.4%	32.2%	33.4%	79.0%	42.3%	
		前年度比	(▲6.1)	(+7.8)	(0)	(▲2.6)	(▲4.2)	(+1.2)	【判定：C】	(基準+5.0)	
		基準値比	(▲6.1)	(+1.7)	(+1.7)	(▲0.9)	(▲5.1)	(▲3.9)			
	【4－3】 市民の地域活動参加率（％）	55.9%	55.9%	44.6%	39.8%	46.3%	49.8%	50.5%	82.9%	60.9%	
		前年度比	(0)	(▲11.3)	(▲4.8)	(+6.5)	(+3.5)	(+0.7)	【判定：B】	(基準+5.0)	
		基準値比	(0)	(▲11.3)	(▲16.1)	(▲9.6)	(▲6.1)	(▲5.4)			
	考察	「南丹市が住みやすいと感じている市民の割合」はやや減少した。18・19歳や20代は他の年代に比べて「そう思う」との回答が低い傾向にあり年代により差がみられる。地域別にみると「肯定的な意見」の割合は日吉・美山よりも園部・八木が高く、地域によってもやや差がみられる。 「防災の面で安心して暮らせるまちだと感じている市民の割合」は横ばいの傾向にある。 「市民の地域活動参加率」はコロナ禍で参加率が落ちたもののコロナ明けから向上している。年代別にみると「参加した」と回答された方の割合は年代があがるにつれて増加する傾向にある。地域別にみると美山が高い傾向にある。									